

家庭と学校を結ぶ、保護者向け進路便り

はじめに

大阪北部で地震がありました。みなさまのご家庭は大丈夫でしたでしょうか。学校は休校になり、前期中間考査に影響が出たのはご存知の通りです。地震の被害もつかの間、今度は西日本一帯で大雨による甚大な被害が出ました。被災された方々には、お見舞いを申しあげるかぎりです。

さて、3年生はいよいよ正念場の夏を迎えます。今年は7月27日まで授業がありますが、同時に校内での講習も始まります。例年よりも10日以上早い梅雨明けを迎え、気温も上昇しておりますが、この暑さの中でのがんばりが、秋以降の学力伸長に必ずや繋がります。どうか、ご家庭でも励ましてあげてください。受験生は常に不安と戦いながら勉強しています。一番そばで見てくださる保護者の方が、彼らにとっては最も心の休まる存在です。ご家庭での後押しを、切にお願いします。

2年生は部活動や行事での主役となっていく時期です。互いに協力し合いながら、それぞれが一步前に進んでくれることを期待します。1年生は、高校生活での初めての夏休みになります。あまり長い休みの期間ではありませんが、何か一つ自分の目標を決めて取り組んで欲しいと思います。一回り成長した姿を休み明けに見せてくれることを願っています。

なにはともあれ、暑い日々が続きますので、くれぐれも熱中症にはお気をつけください。

『看護医療説明会』・『AO入試説明会』・『面接準備説明会』と、既に受験は始まっている!!

5月に「看護医療説明会」(3学年共通)、6月には「AO入試説明会」、そして7月には「面接準備説明会」と、すでに受験への準備は進んでいます。

昨今の傾向として、資格を取得できる大学・学部の人気が上昇しています。本校でも昨年は20名近い生徒が、看護医療系に進学しました。この分野の受験の特徴は、「面接」や「小論文」が試験科目にあるということです。常に人を相手にし、人に奉仕する仕事ですので、生半可な気持ちではめざすことも、続けることもできません。受け入れる側(大学・専門学校)も、どれほどの覚悟と使命感を持って受験しているかを問うてきます。そのため、受験に際しては相当の準備が必要となります。「看護医療説明会」はそのための第一歩です。看護医療系を志望しているごどもさんがおられるご家庭は、説明会の様子を聞いてみてください。そして、そのことをきっかけに、進路についてお話し合ってください。

AO入試という入試をご存知でしょうか? 大学が欲する人物を、筆記試験ではなく、面接やディベート・プレゼンテーション・大学の講義を受けての面接などの課題を課し、合否を決定する入試です。ほとんど誰でもが受験可能ですが、自分自身の実績やアピールポイント、大学入学後に大学・学部の中でどのように活躍できるかなどを明確に示すことができなければ合格はできません。また、エントリーから合格発表までの期間が長く、一般の入試のための学習時間が削られてしまうデメリットもあります。「AO入試説明会」では、その点も含めて説明をしています。

看護医療に限らず、面接を課す入試を実施する入試方法を取り入れている大学が増えています。面接は字の通り、「顔を見せて対応する」試験ですので、大学側はその人の本質をつかもうとします。しかし、自分を上手に表現するのはかなり難しいものです。また、面接特有の所作を身につけるのも大変です。そこで、本校では「面接準備説明会」を開き、面接試験への準備と心構えを説明したうえで、実際に試験が近づけば、何度も何度も「面接練習」を実施します。「面接なんて」と思われるかもしれませんが、国公立大学の中には、「面接」100点・「小論文」100点のみが独自試験である大学もあります。また、面接練習は、将来社会に出て行くときにも役に立つものです。学校では、試験当日に個々の良い

面を引き出せるよう、生徒とともに考えながら面接練習を繰り返して生きます。

いよいよ夏休みです。夏休みが終わると「指定校推薦入試」の「校内選考会」が始まります。第一志望校の第一志望学部が来たならばチャレンジさせてください。そうでない場合は、まだまだ「私立大公募制推薦入試」・「大学入試センター試験」・「国公立大推薦入試」・「私立大一般入試」・「国公立大入試」と多くのチャンスがありますので、下手に妥協せず（妥協させず）にがんばらせていただきたいと思います。入試は3月まで続きます。私たちは、3月末まで彼らとともにがんばっていきますので、どうか家庭でこどもさんと綿密な受験計画をお立てください。

受験のキモである『英語』は、どう勉強すればいいの？

なんと言っても英語は語彙力です。語彙力とは「単語の意味と語法」を理解しているということです。語彙力アップの方法として「シス単やユメタン」のようなリスト形式のものを使いますが、それだけでは意味を機械的に覚えてしまう危険性があります。リスト形式の学習のうえに、英文の中で使い方を意識したトレーニングが必要です。

そのためには、学校で使っている読解の教科書・問題集の既習ページを「意味と英文を結び付けながら」繰り返し音読することが有効です。決して空読み（何も意識せず音だけを繰り返す）にならず、語彙・イディオム・構文・文法などの言語知識も意識して、繰り返し音読を行います。そうすることにより、英語が脳の中に「内在化（長期記憶に入ること）」されていきます。この方法を、文法問題集や Vintage などの問題例文で行えば、文法知識や語彙をさらに効率よく「内在化」することができます。

この種の例文は「日本語訳から英文を再生」できるまで高めていきます。言語知識を脳に内在化し、いつでも取り出せる状態にすることを「言語の自動化」と呼びます。話すとき、書くときには、モデル文が脳から引き出され必要な英語が組み立てられます。読む時も、自動化された英文をモデルにして読解が行われます。「英語の達人」と呼ばれる人たちも、この「自動化トレーニング」を必ず行っています。

（英語科 平尾 一成）

うちの子は…

（「PTA 進路委員」をお願いしている保護者のみなさまに、自分のこどもさんについて語っていただいた文章です。ナマの声をお届けします。）

合格ラインに程遠い大学を希望している娘は、「どうせ無理」「全然あがらん」と、諦めモードにはいることもしばしば。8月の模試で決断しようとしています。他に行きたい大学も見当たらず、迷いに迷っているようです。「浪人してもいい？」とセーフティーネットを張りつつも、諦めきれず勉強しています。

正直、親ができるのはご飯とお金と応援だけ、全然分らんとブツブツ言いながらも、諦めずに立ち向かう娘を最後まで応援したいと思います。

（3年：Hさん）

おわりに

今年の夏は猛暑と予測されています。けれども、暑いときに暑ければ、秋以降の実りは充実するものです。生徒たちが暑い（熱い）夏を乗り切って、大きな実りを得ることを期待します。

なお、進路に関するご質問やご相談がありましたら、ご遠慮なくご連絡下さい。

TEL 072-821-0546

（事務室に電話がかかりますので、「研究開発室へ」とおっしゃってください。）

文責：神原 実（研究開発室）